

あろま

2009.12.21.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

12月例会 ハンドボールの授業づくり

12月5日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック12月例会が開催されました。4年生のハンドボールの授業づくりについて、参加者みんなで話し合い、理解を深めることができました。この日の参加者は6人でした。

この日、話し合われたこと

言語活動を重視した校内研究

水本さんの勤めている小学校の校内研の研究主題は「豊かな表現力のある子どもの育成 ~全教科・領域における言語活動を通して~」です。最近、このような校内研のテーマが増えています。Wさんが11月に講師として行った小金井の中学校の校内研でも、「体育(器械運動)における言語力を高める授業」が行われたということです。

このように言語活動が重視されているのは、新指導要領のもととなった中教審のまとめの中に、「言語活動の充実」が、学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点として書かれているからです。その背景には、PISA調査の読解力や数学的リテラシー、科学的リテラシーについての評価があることは言うまでもありません。

余計な批判をかわすためにも

校内研などで研究授業を行うとき、指導案について学習指導要領との関連で指摘を受けることがあります。形式的なところでの論議に時間をとられて、肝心の授業の中身についての論議が不十分なまま終わってしまうのでは意味がありません。

それで、そのような余計な批判をかわすためにも、指導案の中に学習指導要領との関連を意図的に書いておくことも必要かもしれません。

小金井の中学校の校内研の授業は次のようなものでした。

保健体育科 3年男子「器械運動」(跳び箱)

【単元の「言語活動」の内容】

踏み切り、着手、あふり、第二次空間など、専門用語の理解

「Aができないのは~だから」とか「B君のあふりのタイミングは~だ」など、体育としての学習内容に関わって、認識し、思考し、伝達する言語活動を行う。

本時の授業における「言語活動」

- ・ネックスプリング、ヘッドスプリング、ハンドスプリング跳びを正確に美しく行うにはどうしたらよいかを言葉で表現し、話し合いができるようにする。
- ・自分の気持ちを感じや言葉で表現し、話し合いをしたり、学習カードに記入したりする。

Wさんはこの授業の講師としての資料の中に次のように書いています。

～ 体育（器械運動）における言語力を高める授業づくりの視点から～

1. 課題解決学習と体育の授業

- ・器械運動では「運動課題のひとまとまり」を『技』と呼んでいる。
- ・従って、体育の運動学習では、「技」に取り組み、課題の発見と、これを解決する過程（わかる・できる）に、「言語活動」が、思考力・判断力・表現力との関係で重要になる。

中教審の学習活動における6つの分類（体験から感じ取ったこと、事実の理解と伝達、概念・法則の活用・説明、情報の分析・評価、課題設定と仮説・実証、自分の考えや集団の考えを発展させるための「伝え合い」）は、この学習活動に組み入れられると考えるとよい。

2. 「跳び箱運動」における、学習指導要領のねらいと言語活動

～技術認識（「知識、思考・判断」）を中心にした「伝え合い」のグループ学習が重要～

指導要領では、「技能」「態度」「知識、思考・判断」の3つの観点が出されているが、この関係性は、「技能」が身につくには、その「技のしくみとはたらき」がわかり、できる過程（技術の分析・総合）のなかで、態度が身につくと考えることができる。

従って、問題解決学習では、この技術認識を集団で深めながら、「わかる・できる・分かち伝え合う」授業づくりが大切になると考える。従って、言語活動もその中心に、技術認識に関わるものが中心になると考える。具体的には、次のように考えたい。

（以下、略。この資料をご希望の方は、屋城小までご連絡ください）

このように位置づけてあれば、同志会でやっているようなグループ学習が、何の心配もなくできるのです。

水本さんの計画しているハンドボールの学習

水本さんは、4年生のハンドボールの学習を計画しています。ハンドボールはどのような教材かということについて、水本さんはこんなふうには書いています。

ハンドボールは、縦2m横3mとゴールが大きいので、広い空間いっぱいボールを投げ込み、シュートを決めてネットを揺らす心地よさを、みんなが味わえる教材である。また、コートが広く、ゲームも4人対4人と少ない人数で行うので、空いている空間ができやすくなる。だから、

シュートできる空間までボールを運ぶことが比較的簡単にでき、シュート局面での攻防の学習がしやすくなる。これは、高学年で扱うバスケットボールやサッカーの作戦づくりにも生かすことができる。また、中学年では、楽しくゲームを行うために、話し合いをしながら規則をつくっていく活動も大切である。楽しくゲームを行うために、規則をつくっていくのだということも体験させたい。特に、ゲーム記録から自分たちの課題を見つけたり、シュートが入りやすい空間や条件を見つけたりする力や、シュートできる空間に入り込み、(ノーマークの状態で)パスをもらってシュートする力を伸ばしたい。

この子たちは、3年生で「タッチボール」を学習してきているのだそうです。このタッチボールは、ボール操作が苦手な子も得点でき、だれもが積極的にゲームに参加できるようになったということでした。ボール操作についても、3年生でタッチボールを始めたころは、自分で投げ上げたボールが捕れなかったり、相手にパスが届かなかったり、パスされたボールをポロポロ落としたりしていたようですが、ボールを使った準備運動を毎回7分間入れて取り組む中で、ランニングパスができたり、ジャンプキャッチができたり、両手をハの字に開いてしっかり捕れたりできるようになったということです。

水本さんの研究授業の日は、2月10日(水)5校時です。

参加された方の感想から

水本さんの授業の話聞きながら、すごい子どもたちだな!!と驚きました。

ゲーム記録のつくり方、読ませ方、そこからどんな話が、子どもたちの口から飛び出するのか!ワクワクする思いでした。

同時に、水本さんがこんな授業ができるための土台の学級経営の中身にもすごく興味がわいてきました。

4年生の集団の力の育ませ方、1月の例会がすごく楽しみになりました。
(Aさん)

中教審が、OECD調査における日本の実態分析との関わりで新指導要領を位置づけ直し、その目論見の中で、体育においても言語表現を要求していることがわかりました。しかし、あまりにも分析的になりすぎると、体育としての独自性を失い、手段としての体育になってしまう危惧も感じました。できれば関わらずに済ませたいのですが、公教育が拘束されていく以上、指導案の書き方についてもしっかり学び、その上で独自性(自分の立ち位置)をしっかりとすることが必要だと思います。

W先生の適切な分析・指摘と水本さんの苦悩は、今後これに悩まされる教員にとって、貴重な財産になると思いました。

水本さんがどのように指導案を仕上げ、具体的な実践を迎えるのかが楽しみです。今回も大変勉強になりました。有難うございました。(Bさん)

水本さんの子どもたちの育て方は、やっぱりすごいです。学習に立ち向かわせる子どもたちの姿勢を、ここまでやるかというくらいのものにさせる指導力は、ちょっとまねのできないものです。

水本さんのハンドボールの指導案の検討を通して、ゲームとその分析や、練習をどう考えるのかということなどについて、いろいろ考えることができました。

(Cさん)

久しぶりに参加させていただきました。

普段、何となくやっている体育指導が、一つ一つ言葉で整理されていきます。短い時間でしたが、来てよかったです

(Dさん)

・水本先生の指導案検討から、学習指導要領と照らし合わせて、指導案の書き方がわかった気がしました。

・指導案の中での「単元について」の意味や書き方もわかりました。

今後自分が指導案をつくるときの参考にしたいと思います。

水本先生の授業、楽しみです。

(Eさん)

西多摩ブロック1月例会のご案内!

4年・ハンドボールの授業報告

日時 1月30日(土) pm1:00~

会場 あきる野市屋城小 042-558-1128(渡辺、佐々木)



お待ちしております!

12月例会で行った授業案検討後の授業実践報告を予定しています。

テーマは「体育における言語活動の充実」。

体育での言語活動で学べることは!

4年生がハンドボールの授業で、ボール操作やコンビネーションプレーで学習したことを作戦づくりに活かし、ゲーム記録をとることで、自分たちの課題や成果をどう読み取ることができるのか。言語で豊かにつながる授業づくりとは! みんなで学び合いましょう。